

本紙一誕生を迎ひて

忙中の閑筆 (紫水生)

人は七轉八起と云ふ事があるの眼鏡を以て一物体を透視すれば
 を紫水生は記憶す。
 僕が嘗て某社に在勤中殆ど犠牲
 的に奮闘したが其主腦者は、僕關して、某君は迷惑して居る、
 をして「反逆者」と葬り去つたの例え或るノノの○さんが或
 であつた。
 僕が、郡南某有力者の支持を得る、○として一喜劇を演じた
 て本紙を創刊せんとした時の悔かだ。
 然し寄稿者が誰であらうと、
 僕に阻害を加へた、僞紳士もあ 第三者の余計のオセカイは入ら
 ぬ話した。
 創立、滿一ヶ年を迎ふに當つて マー世間にはオルト賢明なバラ
 過去一ヶ年の種々雑多な、苦痛 体の偉大な人物が多い様だと思
 や困難な事件を偲ぶ、復た隠れ ぶ、よ

必ず卓効ある責任薬

- 美 神 淋 藥……………(四、五〇)
- 美 神 毒退治丸……………(一、五〇)
- 美 神 丸 婦 人 坐 藥……………(一、五〇)
- 美 神 湯 婦 人 内 服 藥……………(一、五〇)

平町専賣所 **山野邊藥局**
 平町五丁目角

たる應援者夫れは精神的に、物 僕が先日社用を帯び湯本行の
 質的に、紙面上、根強く、心かへり、自動車で一商人と一官
 深く多くの人々には感謝する言 吏との對話、頗る面白い且つ振
 葉さへ見出せぬ程の感謝である つて居るよ、曰「○○○長は下
 僕は更に、編輯は勿論營業方面 宿の娘を○○として目下○月と由
 に是れ等の人に酬ゆるに熱ある 是れも簡易な○○でせう」と官
 努力を盡し度い、心を強大なら 吏云ふと、商人「後家をウマク
 しめたのである。
 一誕生の一ヶ年を憶ひ出して、 やつて居る○場君もある、僕は
 四圍の複雑や、微妙な○○も、 或る程度迄○權の濫用とかも思
 異様に感ずるのである。 つたよ、所謂綱紀肅正などは何
 ▲本紙の編輯上に關して極端な 紅燈の巻は筆者の都合により
 悪宣傳や、下劣な妨害を加へて 本紙は休載致しますが、物凄
 喜ぶ、低脳兒な愚人のあるには 材料は豊富に、山をなして居り
 驚くのみである。 ますから、次號よりドシト、掲
 勿論僕は神様でないから欠点 載致しましてから御安心を願つて
 も短所もあるでせう、然し赤き 置きます。

祝創刊一週年

代議士 比佐昌平	縣會議員 鈴木辰三郎	篤志家 山崎與三郎	縣會議員 山崎吉平	磐城共濟病院 醫學博士 難波陸	平産婆看護婦學校校長 清野キヨ	平南町大森醫院 醫學士 大森勇	石城産婆看護婦學校校長 鷹崎千代	藤田女學校校長 藤田榮助	善堤院 桐原英純	石城郡町村長會
-----------------	-------------------	------------------	------------------	------------------------	------------------------	------------------------	-------------------------	---------------------	-----------------	---------

和洋銅鐵金物問屋
釜屋商店
 諸橋守次
 諸橋元三郎
 電話九番・一三九番

職工募集
 一家具指物職人 五名
 但し相當經驗を有し永勤出來得る者詳細面談す
 平町三丁目
丸はん家具店
 電話三五九番

謹告
 今般婚儀内祝のため五月六日七日兩日間
 休業可致候
 御華客様に御不自由な掛け申譯無之候得
 共何卒御諒察の程奉希上候
三井吳服店
 海岸線平町

淋病と消渴に
 云ふ最新藥の服用をお勧め致し
 ます 胃腸を害さず
 きよめの良き事すでに服藥者の言
 により明かです
 四日分金壹圓 八日分金貳圓
 製藥發賣元 **水野藥局**
 平町一丁目

勸業債券 兩替
 復興債券 金融
多田井質店
 電話八六九番

眼鏡 TOKIWAYA
 無料 檢眼
 常盤屋時計店 眼鏡部
 平町電三三九
 御料理仕出し

越乃家
 平町二丁目
 電話三三〇番